



# 植竹小学校の教育

校長 鯨井幹夫

## Ⅱ. めざす学校像

◆児童にとって  
学びがいのある学校

◆保護者にとって  
頼りがいのある学校

◆教職員にとって  
働きがいのある学校

◆地域にとって  
誇りのもてる学校

- ◆さいたま市教育総合ビジョン
  - ◆さいたま市学校教育ビジョン
- 「ゆめをもち、未来を切り拓く、さいたま市の子ども」
- ①将来なりたい職業を見つけられる子ども
  - ②自分の言動に責任をもてる子ども
  - ③クリティカル・シンキングのできる子ども

- ◆保護者や地域そして教職員の願い
- ・豊かな心
  - ・健康な体
  - ・確かな学力
  - ・地域に開かれた学校
  - ・信頼できる学校
  - ・地域の文化を大切にしている学校
  - ・安心、安全な学校

## I. 学校教育目標

- すすんでまなぶ子(知)
- たすけあう子(徳・コミュニケーション)
- げんきな子(体)

- ◆求める教師像
- ・子どもに確かな学力をつける教師(確かな指導力)
  - ・子どもをよく見て、愛情をかける教師(受容と共感)
  - ・子どものよさや個性を生かす教師(信頼関係)
  - ・子どもに笑顔で接する教師(夢と希望)

- ◆市教委の委嘱研究(学校課題研究)
- 国語力向上 H28・29年度研究推進校  
【研究テーマ】自ら学ぶ力や思考力・表現力を発揮して生き生きと学び合う児童の育成  
～言語活動の具体化と主体的・協働的な学習を通して～

## Ⅲ. プロジェクト

4つの柱



- ①学力の向上を図る(知)
- ②明るくやさしい心を育てる(徳・コミュニケーション)
- ③健康な体をつくる(体)
- ④地域とむすびつく(地域・コミュニケーション)

## Ⅳ. プログラム

23の項目



- 1 基礎学力の定着と記述力、思考・表現力の向上
  - 2 校内研修による自ら学ぶ学習スタイルの定着
  - 3 学年協働による教材研究と指導法研修の充実
  - 4 TTやSAを活用した個に応じた指導の推進
  - 5 情報教育・ICTの活用
  - 6 小中一貫教育の推進
- 1 全校あいさつ運動とたてわり活動の推進
  - 2 基本的な生活習慣・廊下歩行の定着
  - 3 道徳教育と人権教育の重視(いじめのない学級・学校づくり)
  - 4 特別支援教育の推進と啓発
  - 5 心と頭を耕す読書活動の充実(図書ボランティアとの連携)
  - 6 「毎日が教育相談日」の実践と相談体制の充実
- 1 外遊びや縄跳び、マラソンなど運動の奨励
  - 2 握力とボール投げの向上(工夫した取組を)
  - 3 給食指導とアレルギー対応、「食育」の充実
  - 4 清掃指導(無言清掃)の徹底
  - 5 安全教育並びにASUKAモデルの実践
  - 6 早寝・早起き・朝ごはんの啓発
- 1 盆栽教育の推進と充実
  - 2 防犯と交通安全ボランティアやSSNの活動推進
  - 3 学習支援や図書、美化、リーグ、盆栽、おやじの会等のボランティアとの連携
  - 4 土曜・放課後チャレンジの充実
  - 5 地域・自治会の行事や、PTA行事への積極的な参加促進



希望あふれる学校づくり推進運動 教職員の合言葉「子どもたちの夢がふくらむ一言と笑顔を！」

## 地域に生きる特色ある教育活動の推進

「盆栽教育」を通して、人と文化、心のつながりを広げる

### さいたま市立植竹小学校

#### 一 はじめに

本校は、さいたま市北区の南東に位置し、学区内には区役所や図書館、盆栽美術館や漫画会館などがあり、文化的にも恵まれた地域である。

開校は昭和二十六年、六十四年目を迎える。

児童数は八百一名、二十七学級。PTA活動



校舎風景

も活発で、今年度は全国表彰も受けるほど熱心で協力的である。また、地域も学校に理解があり、教育活動の様々な場面で支援をいただいている。

#### 二 学校経営方針

学校教育目標に「すすんで学ぶ子、たすけあう子、げんきな子」を掲げ、学校と家庭・地域が一体となって教育活動を進めている。特に今後の地域を支える人

材を育成するため、学力の向上はもちろんのこと、地域の文化や行事を大切にす  
る心豊かな児童の育成を心がけている。

#### 三 「盆栽教育」の推進

本校の「盆栽教育」の開始は平成十八年  
で、今年で十年の節目を迎える。昭和四十年代頃、高学年が一人一鉢で盆栽を  
育てていたこともあったが、十年前に総  
合的な学習として本格的に再開し、取り  
組みを始めた。二〇一七年の四月には、  
第八回世界盆栽大会がさいたま市を会場  
にして開催される予定で、地域の盛り上  
がりとともに、学校も何らかの形で参  
加・応援しようと考えている。

盆栽教室は、五年生の十月に開催し、  
一人一鉢の盆栽をつくって学校の盆栽庭  
園に置いて育てる。六年生の六月に行う  
二回目の盆栽教室では、自分の盆栽の手

入れを行い観賞も行う。そして、卒業式  
のときには式場に飾り、子どもたちは自  
分の盆栽を持って卒業していくようにし  
ている。そこには、命あるものを大切に  
する心、他者を思いやるやさしい心を持  
って卒業してほしいという教師や保護者、  
そして地域の願いが込められている。

#### (一) 盆栽教室の実際

本校の卒業生で、大宮盆栽村にある老  
舗盆栽園「清香園」五代目の盆栽家であ  
る山田香織先生に、第一回目から講師を  
お願いしている。五年生の子どもたちは、  
山田先生の話聞きながら植栽作業に取  
り組み、地元の盆栽ボランティア「ぼん  
さい遊々」のメン  
バーや本校の盆栽  
支援ボランティア  
のサポートを受け  
て完成させる。



盆栽教室

まず、「真柏」の苗木の正面決めをした  
後、剪定をして形を整える。そして根を  
ほぐして切りそろえ、鉢に土を入れてコ  
ケを貼って完成。簡単なようで実に繊細

な神経を使う作業である。子どもたちの表情は真剣そのもの、普段の授業ではあまり見られない目の輝きを見せる。

完成した後には書いた子どもたちの感想文には、「盆栽を下からながめて見ると、本当の大きい木のように見えてきました。今年のテーマ『未来にかがやけ 私たちの盆栽』と一緒に盆栽も自分も大きく成長していきたいと思います。」など、盆栽作りに取り組んだ子どもたちの心情が素直に表れていた。

## (二) 盆栽庭園での世話

盆栽はその世話が結構難しい。ただ、その日々の世話を通して子どもたちの心を育むことができる。

P T Aの協力で「盆栽庭園」も整備され、

学校の環境は整えられて



盆栽の世話

業間休みになると当番が水遣りをし、月に一度は盆栽の向きを変える。虫がついていないか、枯れていないか、自分の盆栽を気にしてみるのは当然のことである。

## (三) 盆栽園や盆栽美術館の見学

盆栽教室の後、五年生は学区内にある五つの盆栽園のうち、いくつかの盆栽園と盆栽美術館を訪問し見学する。地域はどこに盆栽園があるのか、盆栽がどのようにに大事に育てられてきたのかを実際に一人一人の目で見て感じてくる。また、盆栽園では園主の方から盆栽を育てる喜びや苦労話を聞くこともある。また、盆栽美術館では大宮盆栽村の歴史や盆栽の見方などを学習する。これらの活動は、地域の文化を知り、本物の素晴らしさを知るよい機会となっている。

## (四) 総合的な学習の時間で

「日本の文化を知ろう」、「探ろう世界、見つめよう日本」というテーマで、毎年「盆栽」を中心に調査活動や栽培・体験活動に取り組んでいる。盆栽を育てることを通して、地域の文化に誇りをもつとともに、世界の文化へも目を向ける学習を行っている。また現在、卒業生の有志で組織された「盆栽ジュニア」も地域で活躍し始めている。これらは、本会報の

「ともに生きる知恵を磨き、心結ぶ未来社会をつくる 誇り高き子どもの育成」という特集題ともまさに重なる姿である。

## 四 保護者・地域と手を取り合って

地域の中で、地域の文化と共に子どもたちを育てていくことが大切である。地域の盆栽園や「ぼんさい遊々」の皆さん、盆栽美術館や自治会の皆さんに加え、今年から卒業生の保護者を含めた「盆栽支援ボランティア」を組織し、子どもたちの活動を支える取り組みを始めることができた。盆栽が人と人とを結び、心と心をつなぎ付けていくシンボルとなっている。

## 五 おわりに

先輩方の努力と十年という歴史により、植竹小学校と言えば「盆栽」というイメージが定着している。今後も特色ある学校づくりとして、盆栽を核にして地域ぐるみで子どもたちを育てていきたい。

(文責 校長 鯨井 幹夫)



盆栽の観賞